— 観 察 記 録 —

北海道羽幌町におけるキガシラセキレイの亜種 *Motacilla citreola calcarata* の日本初記録

岩澤光子¹・先崎理之^{2,*}・梅垣佑介³・石郷岡卓哉⁴

¹ 北海道海鳥センター友の会 〒078-4116 北海道苫前郡羽幌町北6条1丁目

² 北海道大学農学院 〒060-8589 北海道札幌市北区北9条西9丁目

³ 〒558-0052 大阪府大阪市住吉区帝塚山西4-13-40

⁴ 北海道海鳥センター 〒078-4116 北海道苫前郡羽幌町北6条1丁目

(2012年12月2日受付；2013年1月30日受理)

キーワード：キガシラセキレイ, *Motacilla citreola calcarata*, 北海道, 亜種, 日本初記録.

日本鳥学会誌

Japanese Journal of
Ornithology

© The Ornithological Society
of Japan 2013

Mitsuko IWASAWA¹, Masayuki SENZAKI^{2,*}, Yusuke UMEGAKI³, Takuya ISHIGO-OKA⁴.
2013. The first record of Black-Backed Citrine Wagtail *Motacilla citreola calcarata* from
Japan. Jpn J Ornithol 62: 175–178.

Key words: Citrine Wagtail, *Motacilla citreola calcarata*, Hokkaido, Subspecies, First
record.

¹ The Friends of Seabird Center, Kita 6-1, Haboro, Hokkaido 078-4116, Japan.

² Graduate School of Agriculture, Hokkaido University, Kita 9, Nishi 9, Kita-ku, Sapporo,
Hokkaido 060-8589, Japan.

³ 4-13-40, Tezukayama-nishi, Sumiyoshi-ku, Osaka-shi, Osaka 558-0052, Japan.

⁴ Hokkaido Seabird Center, Kita 6-1, Haboro, Hokkaido 078-4116, Japan.

1. 種名・観察個体数：キガシラセキレイ（亜種 *Motacilla citreola calcarata*）1 個体.

2. 観察者名：岩澤光子・石郷岡卓哉・山崎永尋ほか

3. 観察日時・観察場所：2009年5月15日9:00–9:30 北海道羽幌町のビオトープ「自然空間はぼろ」内の「ほっかいどう池」（44°35'84"N, 141°72'30"E）.

4. 観察距離：30 m の距離から8倍の双眼鏡で観察した.

5. 観察した環境：羽幌町は北海道中央部にあり旭川市の北西約100 km の日本海に面した町である. 本個体は、羽幌市街地北部を流れる羽幌川の河道跡地に人工的に作られた7 ha のビオトープ「自然空間はぼろ」内にある「ほっかいどう池」で観察された. 「ほっかいどう池の開放水面」には、

ガマ *Typha latifolia*, フトイ *Scirpus tabernaemontani*, ヨシ *Phragmites australis* 等の抽水性および湿地性草本が生えており、池の周囲にはヒメスイバ *Rumex acetosella*, イヌタデ *Polygonum longisetum* 等の草丈の低い草本が生えていた. 周囲に木本はなく、また観察時には多くの草本が伸びきっておらず、周辺の見晴らしはよかった.

6. 形態に関する記述：大きさは周囲にいたハクセキレイ *Motacilla alba* より小さく、ツメナガセキレイ *M. flava* と同程度に見えた. 体型はハクセキレイやツメナガセキレイと良く似ていたが、ツメナガセキレイと比較してやや尾が長く感じられた. 虹彩は暗色だった. 頭部の半分より短い嘴は細く尖っており、上下嘴ともに黒かった. 頭部および胸部、腹部までの体下面は鮮やかな黄色で、脇に一部褐色の羽が見られた. 下尾筒は腹部側で白色みを帯びた黄色、尾部側で白色だった. 後頸、上背、背、肩羽から腰、上尾筒までの体上面は黒色だった. 中雨覆はわずかにバフ色みを帯びた白

* E-mail: bittern0412@yahoo.co.jp

doi:10.3838/jjo.62.175

JOI:JST.JSTAGE/jjo/62.175

色で先端が黒色だった。大雨覆は白色だった。三列風切は黒色で、明瞭で太い白色の羽縁があった。初列風切は黒色だったが、上面や三列風切の黒色と比べて褐色みを帯びていた。尾羽は全長の1/3よりやや長く、少なくとも最外側尾羽1対は白色だった。中央尾羽上面は黒色だった。脚は黒色だった。

7. 計測値：—

8. 種を同定した規準：上述の形態的特徴から本個体はセキレイ属 *Motacilla* の一種であり、頭部に模様がなく全体が黄色いこと、中雨覆の大部分と大雨覆、下尾筒の一部が白色であることからキガシラセキレイ *M. citreola* である (Cramp & Simmons 1988; 真木・大西 2000; Alström et al. 2003; Van Duivendijk 2011)。また、頭部全体が黄色いことから雄夏羽である (Cramp & Simmons 1988; Alström et al. 2003; del Hoyo et al. 2004)。

キガシラセキレイの亜種の分類については諸説あり、2亜種 (Alström et al. 2003) または3亜種 (Cramp & Simmons 1988; Svensson 1992; del Hoyo et al. 2004; Clements 2007) に分類されることが多い。3亜種に分ける場合は、東ヨーロッパ、ロシアアルタイ地方、カザフスタン北部～東部で繁殖する亜種 *werae*、中央～東シベリア、ロシア南部、モンゴル南部などで繁殖する亜種 *citreola*、およびこれら2亜種の繁殖地より南側のイラン、アフガニスタン、ヒマラヤ、チベット、中国青海省などで繁殖する亜種 *calcarata* に分けられる (Cramp & Simmons 1988; Svensson 1992; del Hoyo et al. 2004; Clements 2007)。2亜種に分ける場合は、亜種 *werae* を亜種 *citreola* のシノニムとする (Alström et al. 2003)。亜種 *werae*、亜種 *citreola* と亜種 *calcarata* の雄夏羽は、前二者の体上面が灰色であるのに対し亜種 *calcarata* では黒色であることや、亜種 *calcarata* では大雨覆の白色部が大きいこと、頭部から体下面がより鮮やかな黄色でありその部分が下尾筒まで達することなどが異なる (Cramp & Simmons 1988; Alström et al. 2003)。亜種 *citreola* にはしばしば上背が黒い個体がいるが、亜種 *calcarata* ではさらに黒い (Vaurie 1959)。本個体は、上背だけでなく体上面が一様に黒色で、その他の特徴も亜種 *calcarata* に合致しているため、亜種 *calcarata* と同定した。

セキレイ属鳥類のうち、ツメナガセキレイの亜種 *flavissima*、亜種 *lutea* の頭部全体が黄色いタイプは本個体と類似するが、これらは上面が緑色みを帯びた灰色であること、先端を除いて中雨覆と

大雨覆が褐色であること、下尾筒全体が黄色であることから本個体とは異なる (Cramp & Simmons 1988; Alström et al. 2003)。

9. 観察した行動：5月15日9:00頃に「ほっかいどう池」の畔におりる本個体を発見した。このとき、本個体は浅瀬や周囲の裸地などをせわしなく歩きながら採餌していた。観察中、鳴き声は発さなかった。9:30頃には飛び立ち、この日は以後観察されなかった。16日14:00–15:00にも同一と思われる個体が観察され、その時は採餌せず、「ほっかいどう池」の畔や周囲の石の上を行き来しており、時折ハクセキレイに追われていた (山崎永尋 私信)。

10. 写真の有無：有り (図1)。

11. 死体・標本保管場所：—

12. 過去の記録とその文献：キガシラセキレイの日本における初記録は1970年の長崎県男女群島でのものである (高野 1981)。その後1990年までは、本種の国内記録は、本州西部、九州、南西諸島を中心にわずかに10例程度があるに過ぎない (高野 1981; Brazil 1991)。しかし、それ以後は春季の南西諸島や西日本、日本海側の離島を中心に多くの記録があり (五百沢ら 2000; 真木・大西 2000; 日本鳥類目録編集委員 2000; 日本鳥学会 2012)、国内からは毎年のように記録されている。このうち北海道においては本報告を含めて3例の記録がある (藤巻 2010)。これまで国内で記録された本種の亜種はすべて亜種 *citreola* であるとされており、亜種 *calcarata* の記録は報告されていない (日本鳥学会 2012)。

13. その他：本個体は5月17日に「ほっかいどう池」で観察されたのを最後に、それ以降は確認されていない。

なお、岩澤 (2009) および石郷岡 (2009) のキガシラセキレイに関する記述は本個体と同一個体についてのものである。日本鳥学会 (2012) には本亜種の掲載がなく、本亜種についての詳細な検討をした報告が必要であると判断したため、本観察記録をまとめた。

14. 考察：上述のようにキガシラセキレイの国内からの記録は過去20年余りで著しく増加したものの、亜種 *calcarata* の記録はこれまでなく、本記録が同亜種の国内初記録と考えられる。

従来我が国においては、キガシラセキレイと類似種のツメナガセキレイなどとの識別ばかりが注目され、そもそも亜種間識別が論じられる機会がなかった。そのため、亜種 *calcarata* の渡来がこれ

図1. 羽幌町で観察されたキガシラセキレイ *Motacilla citreola calcarata* (2009年5月16日. 撮影: 石郷岡卓哉).

Fig. 1 Black-Backed Citrine Wagtail *Motacilla citreola calcarata* observed at Haboro Town, Hokkaido on 16 May 2009. Photograph by T. Ishigo-oka.

まで見過ごされていた可能性はあるだろう。本記録の報文化をきっかけに、過去の同種の記録の洗い直しが行われれば、亜種 *calcarata* の記録が発掘される可能性はあると思われる。亜種 *calcarata* は亜種 *citreola* に比べて長距離を移動しないため (Cramp & Simmons 1988), 今回の北海道羽幌町における亜種 *calcarata* の記録は、本来の渡り距離を越えて移動してしまうオーバーシュートのような事故的要因によるものと考えられる。実際、同亜種は日本より本来の生息地に近い大韓民国, 朝鮮民主主義人民共和国, および中国東部 (雲南・四川・甘粛省南部以東) からはこれまで記録がないという (大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国については Nial Moores 私信; 中国については Richard Lewthwaite, Geoff Welch 私信)。

本個体の齢であるが, 春季の本種の雄第一回夏羽は頭頂から後頸にかけて褐色の斑がしばしば見られ, 多くの場合体下面の黄色が薄いこと, 初列雨覆, 小翼羽, 風切羽 (特に初列風切) に摩耗した褐色の幼羽が残ることから成鳥と識別できる (Cramp & Simmons 1988; Alström et al. 2003)。本個体は頭部や体下面の黄色が鮮やかで, 雨覆に幼羽は見られないが, 初列風切は褐色であるため第一回夏羽の可能性がある。

なお, 亜種 *calcarata* の和名はこれまでなかった。本亜種の英名には Himalayan Citrine Wagtail (Avibase-the world bird database online), Black-Backed Yellow-Headed Wagtail (Dement'ev & Gladkov 1970;

Ali & Ripley 1973), Black-Backed Citrine Wagtail (Wassink & Oreel 2008; Porter & Aspinall 2010; Occhiato 2011) がある。本報告では, これらの英名を考慮し, 本亜種の分布域がヒマラヤ山脈に限定されないことから, 形態的特徴を良く反映していると考えられるセグロキガシラセキレイを本亜種の和名として提唱する。

本稿をまとめるにあたり, 匿名の2名の査読者, 本個体の観察状況をお教えいただいた山崎永尋氏, 国内での本種のこれまでの記録状況をお教えいただいた五百澤日丸, 高木慎介の両氏, 記録状況や文献をご提供いただいた大西敏一氏, 文献をご提供いただいた池長裕史氏, 大韓民国および朝鮮民主主義人民共和国での記録状況をお教えいただいた Nial Moores 氏, 中国での記録状況をお教えいただいた Jesper Hornskov, Richard Lewthwaite, Geoff Welch の各氏に深く感謝申し上げる。

引用文献

- Ali S & Ripley SD (1973) *Handbook of the birds of India and Pakistan. Vol 9. Robins to Wagtails*. Oxford Univ Press, New York.
- Alström P, Mild K & Zetterström B (2003) *Pipits & Wagtails of Europe, Asia and North America*. Chiristopher Helm, London.
- Avibase – the world bird database (online). <http://avibase.bsc-eoc.org/species.jsp?lang=EN&avibaseid=F1E6C2D155A18B03&sec=summary&ssver=1>, accessed 2013-1-30.
- Brazil M (1991) *The birds of Japan*. Chiristopher Helm, London.
- Clements JF (2007) *The Clements checklist of birds of the world. 6th edition*. Cornell Univ Press, New York.

- Cramp S & Simmons KEL (1988) *Handbook of the birds of Europe, Middle East and North Africa: The birds of the Western Palearctic Vol V*. Oxford Univ Press, Oxford.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (2004) *Handbook of the birds of the World. Vol 9. Cotingas to Pipits and Wagtails*. Lynx Edicions, Barcelona.
- Dement'ev GP & Gladkov NA (eds) (1970) *Birds of the Soviet Union. Vol 5*. Israel Program for Scientific Translations, Jerusalem.
- 藤巻裕蔵 (2010) 北海道鳥類目録改訂 3 版. 極東鳥類研究会, 美唄.
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の野鳥 550. 山野の鳥. 文一総合出版, 東京.
- 石郷岡卓哉 (2009) 羽幌へやってきた鳥たち—シロハラクイナ, キガシラセキレイなど—. 北海道野鳥だより 157: 8–9.
- 岩澤光子 (2009) キガシラセキレイの観察報告. オロロン 33(3): 4.
- 真木広造・大西敏一 (2000) 日本の野鳥 590. 平凡社, 東京.
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第 7 版. 日本鳥学会, 三田.
- 日本鳥類目録編集委員会 (2000) 日本鳥類目録改訂第 6 版. 日本鳥学会, 帯広.
- Occhiato D (2011) Black-backed Citrine Wagtail in Turkey - new to the Western Palearctic. *Birding World* 24(6): 257–261.
- Porter RF & Aspinall S (2010) *Birds of the Middle East*. Princeton University Press, Princeton.
- Svensson L (1992) *Identification Guide to European Passerines. Fourth, revised and enlarged edition*. Published by the author, Stockholm.
- 高野伸二 (1981) カラー写真による日本産鳥類図鑑. 東海大学出版, 東京.
- Van Duivendijk N (2011) *Advanced bird ID Handbook. The Western Palearctic*. New Holland Publishers, London.
- Vaurie C (1959) *The birds of the palearctic fauna, Order Passeriformes*. Witherby, London.
- Wassink A & Oreel GJ (2008) Birds of Kazakhstan: new and interesting data. *Dutch Birding* 30: 93–100.